

性は私一人きりでしたが、今年は四人入社することが決まっているのでとても嬉しいです。

知事 「女性だから」と、男女の枠を決めてしまうのはどうかと思います。私の若い時は、女性は結婚して子どもを産んで主婦として家庭を守るといいう人が多かったですが、最近では社会に進出している人が増えていますね。
私は、女性も生きがいを求めて社会進出をして欲しいと思っています。も

「やさしいまちづくり」が、障害者の自立を促します

竹田 一昨年、福祉事情を見るための海外研修に行かせていただきましたが、アメリカでは障害者のための公共施設や交通基盤の整備が進んでいて、それが障害者の就労を助けているんです。
知事 確かに、街に出てみることも歩きにくい。アメリカでは道路や公共施設にはスロープやエレベーターがついていて車イスでの移動が簡単にできるし、リフトバスも徹底しているとか。そこで県でも、市町村や民間の皆さんの協力で、誰でも気軽に外出できるような「やさしいまちづくり」を進めています。現在、県立美術館本館や県立劇場もこの点を考慮に入れて改装を行なっているところですよ。

私もですが、年を取ると目や足が次第に不自由になってくる。高齢社会では、福祉は障害者の方々だけでなく、実は県民全体の問題なんです。皆さん

ちろん結婚して子供をつくるというのも大切な使命です。日本の人口もどんどん減っていますからね。私たち男には子どもは産めないから(笑)。
でも、子育てが一段落したら自分の目標を持って再びはつらつと仕事ができるような「男女共同参画型社会」にならなければならぬと思っています。今回の計画には、そのためにも育児休業制度や介護休業制度の普及などを盛り込んでいます。

にもぜひ考えていただきたいことです。
竹田 先程ソフト面の充実とおっしゃいましたが、それは福祉問題にも言えると思います。障害者に対する接し方、心構えも小さい頃からの教育にかかっていると思うんです。
知事 確かに言われる通りですね。障害者の方がリフトバスを利用されると他の人が何分か待たねばならない。アメリカでは、健常者の方が嫌な顔もせず、乗降を手伝ってくれているという。今の熊本で果たしてリフトバスが完備したとして、障害者の方が嫌な気持ちにならないで済むでしょうか。

ハードを充実するだけではなく、暖かい気持ちで手を貸すことのできる教育、言わば「ノーマライゼーションの理念」の普及が大切だと思います。それから、竹田さんたちのアメリカ視察の報告の中で「街の整備が遅れた

障害を自分のことと感知することが福祉の基本ではないでしょうか。

れだけ美しい環境なのに……。残念です。同和問題などあつてはならないことですが、差別のない社会をつくら

励ましあい、助けあうことが必要ですね

野原 上村で高齢者大学に所属しています。「学生」は二百名ほどいます。事務局の方々のご協力で、月一回、史跡巡りとか健康教室などを開いていただいております。また、上村では六十歳以上の約六十名の人がシルバーヘルパーをしています。ゴミ処理については、地区の高齢者がゴミ仕分けの点検をするなどして役に立っています。皆元気でいきいきと楽しんでおります。
知事 私も出初め式などで上村に何度かお邪魔したことがあります。これもボランティア活動の一つとか。いやあ、

ねばなりませんね。そういった心の問題も今回の計画の重要な課題の一つと思っています。

人吉市や上村は市や村を挙げて、皆さん頑張られるから、いろんな行事が盛上がるんですね。果も「さわやか長寿大学校」をつくって応援しています。これにも中高齢者の方々が熱心に受講していらっしゃるようですよ。

野原 この度の新県計画を目にしまして、自分は政治のことに疎いんだなと反省しているところです。村でもいろいろな振興計画がなされていると思いますが、地方にはデイサービスセンターや老人ホームなど少ないんですよ。また、若い人が地域に残らず、結婚間



のは、自分たち障害者が今まで積極的に町に出ていかなかったことにも原因があるのではないかと。言われたことがとても印象的でした。そういう気持ちを持つてくださったことが素晴らしいと思います。
昨年夏、「九州青年の船」に私も団長として同行しました。障害者の方も御一緒に提案したところ、何人か参加されました。万里の長城では、健常者の方が協力して一緒に高いところまで登ることができました。障害者の方はもちろん健常者の方も大変感激されています。

題や出生率の低下などの問題も抱えています。

知事 今回の計画は、市町村のご意見も十分に聞きながら作ってまいりました。住民のために何に重点を置くかというきめ細かなことは、やはり市町村の方がよくご存知のほうです。福祉の基本的なこと第一線である市町村に権限を持たせる方向に進んでいます。

藤本 竜北町の郷土歴史資料館に勤務しております。二年間、「手づくり図書館運動」を進めてまいりました。目指すところは生涯学習の拠点施設となる図書館の設置と、生涯学習社会に対応する図書館活動の充実振興というものです。やはり、人づくりが必要だと実感しています。

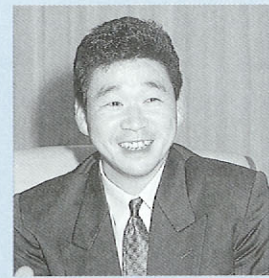
知事 生涯学習も含め、人づくりは大切ですね。教育は「百年の大計」でもありますので、二十一世紀を支える人材の育成にも十分力を入れていきたいと思っています。

さて、最後になりますが、これから二十一世紀に向けて、明るく豊かな社会を作っていくために、果としても数多くのことに取り組んでいかなければなりません。県民の皆さんにも「助けあい 励ましあい 志高く」という熊本の心を胸に、「自分たちがやるんだ」という気持になっていただきたいと思っています。

本日はいろいろな話を伺うことができ、素晴らしい時間を持つことができました。ありがとうございました。



「女性」の代表として
山下 恵美さん
熊本市在住



「障害者」の代表として
竹田 勉さん
熊本市在住



「高齢者」の代表として
野尻 恵美子さん
上村在住



「県民」の代表として
藤本 一臣さん
竜北町在住